

① 地域交流活動提供事業

地域に点在する施設において行う行事を地域のつながりの再生の場として捉え、特につながりの薄い孤立者・引きこもり・障がい者(児)・高齢者、及び要支援者と地域住民の交流の場を提供し、あわせて施設や事業所の地域交流の促進を行います。

② 地域に身近な福祉相談窓口連携事業

地域に点在する施設や事業所に地域に身近な相談窓口を設置し、一時相談窓口として生活困窮者や認知症など地域の要支援者の相談又はその要支援者への支援について相談を受けるとともに、ゲートキーパーとしての役割も担います。また、相談内容に応じて他施設や関係機関へつなげ社福連を中心とした相談支援ネットワークの構築を図っていきます。現在 32 の施設・事業所に相談窓口を設置しています。



- ① 各事業所で開催される行事の1つを地域住民の交流活動の場として開催
- ② 交流活動行事カレンダー作成と町民への周知
- ③ 行事を通じて地域住民のつながりの強化へ

福祉なんでも相談所 (介護・認知症・生活困窮)

どなたでもご相談できます。
お気軽にご相談ください。



特別養護老人ホーム 第二長寿園

※事業展開のためその場で対応できない場合があります。ご了承ください。
福智町社会福祉法人地域公益活動連携協議会

- ① 各施設に「地域に身近な福祉相談窓口」を設置する。その対応については各施設の職員により対応する
- ② 相談を受けた内容により、他施設や関係機関につなげる（一時的相談窓口機能）
- ③ 適切なつながりがスムーズにできるように、社福連を中心とした相談支援ネットワークを構築する
- ④ 相談窓口の手引きと社会資源リストの活用

③ 災害時要援護者等支援事業

最近は大規模災害が所かまわず発生しているのが現状です。福智町でも福智山活断層があり、未曾有の大災害が発生しないとも限りません。福智町に点在する各施設の機能を活かし、安全と認められた地域の施設を福智町と協定を結び、近隣の生活避難所として指定し、避難住民の安全と生活の継続について支援を行います。必要に応じ対応可能な避難所への福祉的支援を行います。

④ 地域パトロール推進事業

地域の要支援者の見守りは、地域で行うのが最も有効ですが、地域によっては見守り活動が成り立たない地域も存在します。そのためアウトリーチによる訪問活動が必要です。各施設で地域を回る業務の中で気づいたことを事務局へ情報提供します。特に要援護高齢者宅や孤立化した世帯、問題のある子育て世帯などに見守りや支援活動を行います。



- ① 災害時に生活避難所として活用する計画を福智町と協定し支援する
- ② 災害時における地域住民の日常生活が継続できるよう日用品等の提供などを行う
- ③ 避難が必要であり、介護が必要な要支援者への受入れ等の対応を行う



- ① 会員がハイリスクの高齢者宅や孤立化した世帯、問題のある子育て世帯などに対して各施設の送迎等で地域を巡回する際に、見守りパトロールを合わせて行う
- ② 見守りマニュアルに基づき実施するとともに「気づきリスト」を活用し常に見守りのアンテナを張り実施
- ③ 福智町 SOS ネットワークとの連携

⑤要支援者サポーター養成事業

今、認知症の方や身体障がい者の方また精神障がい者の方などの要支援者が地域において普通に暮らせる社会が求められ、ソーシャルインクルージョンによる取り組みの重要性が叫ばれています。そのためには、地域で要支援者を支える又は理解するサポーターを多く作り出すことが必要です。そのサポーターの養成を地域ごとに進め支援していきます。



- ・ オレンジリング（認知症サポーター）＝2,800 名
- ・ ブルーリング（障がい者サポーター）＝26 名
- ・ ホワイトリング（子育てサポーター）＝40 名

① 地域における要支援者を地域でサポートする体制を作り出すために、それぞれの状況に対応できる（又は理解する）サポーターの養成研修会を実施する

② 一般上映会を開催

⑥子どもの居場所づくり

福智町社福連は子どもの居場所づくりの一環として、子ども食堂の運営等の支援を行い、本来の目的である「孤食を防ぐ」「貧困の子どもたちへの食事の提供」に合わせて、その地域の子どもの不登校をなくすことや、子ども食堂を通じて協働による地域づくりを支援しています。現在、板屋地域食堂・西田川子ども食堂・むかご食堂（支援）を実施しています。



【令和7年度実績】

- ・ 地域ふれあい食堂：3回実施 142 名参加
- ・ 日王の湯子ども食堂：6回実施 215 名参加
- ・ むかご食堂：立上げ支援を行い、開催後は物資提供（福岡県）の情報提供を行いました

⑦フードバンク及びフードファミリー事業

フードファミリーとは、食材等を提供していただける地域住民のことで、事前に登録していたき、生活困窮者等の事例が発生した場合にご連絡を差し上げ、提供をしていただいた食材等を即時に生活困窮者等に提供するシステムのことです。フードバンク及びフードファミリーの管理運用は、一般社団法人福智町社会福祉連携協議会と福智町社会福祉協議会が行います。



← 詳しくは社福連 HP 内のフードファミリーのページをご参照ください。

① 個人会員

地域住民でフードファミリーのおこなう活動の趣旨に賛同し、食材等の提供をしていただける個人の方

② 法人会員

地域の企業・商店・施設等においてフードファミリーのおこなう活動の趣旨に賛同し、食材等を提供していただける法人

種 別	フードバンク	フードファミリー
提供いただける食材	保存期間が 6 ヶ月以上ある食材	保存期間が概ね 1 週間以上ある食材
食材提供の受付	常時受付	必要時に登録会員にお知らせ
食材等の保管	福智町社会福祉協議会で保管	必要時に登録会員より提供
メリット	在庫がある為迅速に提供できる	1. 提供いただける食材の幅が広がる 2. 必要なものをダイレクトにお願いできる（指定が可能） 3. 食材を保管しなくてよい 4. 提供する側の充実感がある
デメリット	随時出てくる保存切れの食材の対応	食材のチェック

⑧法人後見事業

福智町社福連では、今後必要性の高くなる事業として法人後見事業に取り組んでいます。会員である福智町社会福祉協議会がおこなう日常生活自立支援事業と連携するとともに、地域住民や福祉関係団体と連携しながら、ご本人を中心としソーシャルサポートネットワークをつくります。

職員がご本人に適した支援方法を考え、福智町社福連会員や福祉関係機関と協力しながら利用者を支援していきます。

- ・ご本人を中心とした見守りのネットワークをつくります
- ・福智町社福連会員や福祉関係機関と協力しながら支援していきます
- ・福智町社福連会員間相互に職員が後見人となることができます
- ・後見実務担当者が交代しても、長期にわたって一貫した本人支援が実現できます



複数の後見実務担当者がいるため、

- ①ご本人に適した担当者を置くことが可能
- ②バックアップ体制が整っている
- ③交代が可能
- ④資格取得者が多く専門性が担保され
- 後見実務者が確保しやすい
- ⑤組織内で後見実務のチェック体制があり、不正防止等適切な業務が保たれる
- ⑥後見実務の実績を積み重ねているので組織としてのノウハウが蓄積される

- ・後見実務担当：現在18名
- ・受任件数：4件

⑨介護BtoB協定事業 ～ 企業の介護離職防止と介護施設入所者確保のWIN WIN ～

社員の家族に介護が必要となった場合に備え、会社専用相談窓口を設置することにより、介護と就労の両立支援を推進し、介護を理由とする離職の防止につなげます。さらに、社福連と介護BtoB協定を締結することで、会社は福利厚生制度の一環として社員へ提供することが可能となります。

- ①社員への介護に関する相談支援
- ②社員及び家族への会員施設入所への優先的な紹介
- ③会員施設の見学会へのご優待（会社企画の場合は送迎いたします）
- ④社員及び家族の入所までの一貫した相談支援
- ⑤企業の要望による社員に対しての介護に関する講座

- ・企業のメリット→社員の介護離職を防ぐことができます
- ・社員のメリット→介護について無料で相談や施設紹介を受けることができます
- ・社福連のメリット→多くの方に福智町の施設をご利用いただくことができます



⑩不登校生（高校）の就労学習支援事業

不登校には様々な要因があり、そのなかで福祉の仕事に合った不登校生を受け入れ、介護施設など学校と違った環境のなかで就労や学習を行うことにより、高校卒業または卒業程度の高校認定資格取得を支援し、あわせて介護人材の育成と人材確保を行うことを目的とした地域における公益的な取組みです。

- ◎不登校生のメリット→
- ・働きながら社会への適応性を高められる
 - ・就労契約の場合はいくらかの賃金が得られる
 - ・高校卒業資格又は高校卒業認定資格を目指して学習する機会を得られる
 - ・授業単位が得られる（認定された場合）
- ◎法人のメリット →
- ・地域における公益的な取組として貢献できるとともに内容において注視される
 - ・人員が不足する業務を補うことができる
 - ・将来的に経験のある若いマンパワーとして雇用できる



対象者：①不登校対応が必要な生徒で生徒指導教員の推薦する者
②キャリア形成支援プログラムによる就労支援を希望する者
③本人及び保護者の了承が得られる者

受入体制：①各施設において職員の中から就労学習担当職員を置く
②学習室を確保する
③就労メニューを作成し就労する（就労契約の場合、最低賃金以上支給）
④高校認定資格教材等については事務局で準備する

⑪福智DWA T（災害福祉支援チーム）

能登半島地震をはじめ、近年大規模な自然災害が全国各地で頻発しており、福岡県内においても平成29年から5年連続で豪雨災害等が発生し、甚大な被害をもたらしています。

このような状況の中、福智町社福連では、災害派遣福祉チーム（DWA T）を組織し、災害時に避難所等で発生する様々な福祉ニーズへ対応できるよう備えています。大規模災害において、要介護者等の避難所での一時的な避難生活には健康リスクを伴います。

そこで、福智町の地域や顔が分かる関係性を生かした福祉専門職による福智町独自の福智DWA Tを設置しています。

また、県レベルでのDWA Tとの連携も図っていきます。

◎チーム形成

- ・チームは登録された異なる専門資格者5名～6名で形成します
- ・チームの活動は最大5日とし、1日～5日の間で調整します
- ・現在、4チーム結成で登録者は22名です

